



入学を祝して

歯学部長 前田 健康

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新潟大学歯学部に入學された皆さんに、新潟大学歯学部の教職員を代表して、心からお祝いと歓迎の意を表します。また保護者ならびにご家族の皆様の方々にも心からお慶び申し上げます。皆様方のご期待にそえるべく、新潟大学歯学部でその能力をさらに大きく伸ばすことができるよう、私たち教職員も全力を尽くしたいと思います。昭和40（1965）年に設立された新潟大学歯学部は、歯学科に加え、歯科衛生士と社会福祉士のダブルライセンスを取得可能な口腔生命福祉学科を有する国立大学法人歯学部です。我々教員ともに、日々進歩する歯科医学、口腔保健医療・福祉を学び、新潟大学歯学部の新しい歴史を築いていきましょう。

国立大学法人は第三期中期計画・中期目標期間に入り、今年度は第三期の4年目にあたります。緊縮国家財政が続く中、文部科学省は各大学、各大学の使命を明らかにするため、ミッションの再定義を行いました。その中で、私ども新潟大学歯学部の強みとして、「問題解決能力を持った歯科医師養成と国内外の人材養成モデルの構築」、「口腔のQOL向上を目指した基礎・臨床研究」、「有病・高齢者への対応や歯科再生医療の実践」があげられました。新潟大学歯学部では、包括的医療を行うことのできる有能かつ感性豊かな歯科医師の育成、歯科医学発展のために指導的な人材および保健・医療・福祉に貢献する専門職業人の育成を教育目標としています。この教育目標達成するために、さまざまな工夫を凝らしたカリキュラムが編成されています。特に、新潟大学歯学部では「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としています。君たちがこれから新潟大学歯学部で

学ぶ講義、実習の内容は社会に出てからのスタートラインに立つための内容でしかありません。歯科医療人、口腔保健・福祉医療人として長い人生を過ごすしていくには、日々進歩する学問を常に修得する必要があります。そのためには生涯学習という観点が必要で、生涯学習のためには、自ら学んでいくという態度が不可欠です。医療・福祉を目指すものにとっては、問題を発見し、自ら学習し、問題を解決していくという学修形態（問題発見・解決型学習）が望まれます。本学部では早くから課題解決能力の育成に取り組んでいます。課題解決能力の育成には「学習の主体は学生である」という考えのもとで「学生自身が自ら学ぶ」ということが重要です。新潟大学歯学部の教育の主役は、教員ではなくて、君たち、学生諸君です。自ら努力して勉強しなければ、皆さんが望む成果を得ることができません。自己の目標達成のために、切磋琢磨し、たゆまぬ努力をお願いします。

新潟大学歯学部では早くから教育改善を進め、全国歯科大学・歯学部の教育モデルケースとなっています。特に患者様を相手にした臨床実習は実践的な技能教育として高い評価を受け、臨床教育のフロントランナーとしての地位を得ています。さらに、大学院教育でも政府補助金に裏付けられた教育改善を進め、学部レベルから大学院レベルまで、高い教育の質を担保し続けています。研究面の評価の一つとして科学研究費補助金の採択があげられますが、この補助金の採択率も非常に高く、本学の中ではトップに位置しており、研究能力の高い教員が君たちの学修支援にあたります。また歯学部校舎改修に伴い、新たな実習設備が導入・整備され、学生諸君の技能教育に活用されています。各種教材の整備・充実にも努めており、

高い学修効果をあげるため、環境整備にも努めています。これらの素晴らしい教育環境を積極的に活用し、自分の能力をさらに高めるよう努力して下さい。

新潟市は、今年、開港150年を迎えた世界に開かれた海港都市で、進取の精神に基づいた町です。現代はグローバル社会となり、ボーダーレスな環境の中での人材育成が期待されています。私も新潟大学歯学部でも在学中から夏期、春期休暇を利用した学生の短期海外派遣を行い、毎年、約40名の学生が世界各国に出かけ、自己研鑽を行っています。是非、在学中にthe enterprising spirit of a port city opened to the worldを

持って、海外に旅立ち、広い視野を持って下さい。一步を踏み出す勇気が必要で、自発的な気持ちが必要であれば、意義のある大学生活を送ることはできません。

勉強の話ばかり致しましたが、20代前後のこの時期、勉強ばかりだけでなく、クラブ活動、ボランティア活動などさまざまな社会経験をし、歯学部以外にも多くの友人を作り、教養のある社会人となるよう人間性を磨いてください。そして、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した学生生活を過ごし、卒業時に、今年度新入生および保護者の皆様全員でまた朱鷺メッセで喜びを分かち合いたいと思っております。





歯学部入学おめでとう

新潟大学医歯学総合病院 副院長 小林 正 治

歯学部歯学科ならびに口腔生命福祉学科に入学された令和元年度新入生の皆さん、入学おめでとうございます。難関を突破され、将来の歯科医療ならびに社会福祉を担うべく全国から集まってきた皆さんを心より歓迎いたします。

皆さんは今、大学入学という一つの目標を達成しました。大学での生活は、皆さんがこれからの人生を生きていくための基礎を固める大切な時期になります。高い志を持って、学業に励んでいたことはもちろんですが、サークル活動やボランティア活動など様々経験を通して、多くの人とかわっていただきたいと思います。そして、哲学をしてほしいと思います。哲学するとは何か？高名な哲学者の難しい本を読めということではありません。考えることが哲学です。人生とは何か？愛とは何か？医療とは何なのか？自分は何者になりたいのか？様々なことをこれからの学生生活の中でしっかりと考えてください。

私が20歳の時、もう40年も前になりますが、劇団四季の「この命誰のもの Whose life is it anyway?」という演劇を観ました。劇団四季といいますと「ライオンキング」や「キャッツ」などのミュージカルが有名ですが、「この命誰のもの」という演劇はストレートプレイ、いわゆる社

会派劇でありまして、テーマは尊厳死でした。20歳の私は、医療の何たるかもわからない学生で、また当時の尊厳死の概念も今とはだいぶ違っていました。生きるとは何か？死とは何か？ということ深く考えさせられました。これを観たことが、今でも私が大学病院で医療に関わっている理由の一つであると思っています。

新潟大学医歯学総合病院は、特定機能病院として地域の中核的医療及び高度医療を担う基幹病院であるとともに歯学部医学部の教育病院でもあり、多くの優秀な医療人を輩出してきました。本院の理念は、「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する」というものであります。われわれは、優秀な医療人を育てたいと考え、様々な教育プログラムを用意し、全国モデルとなる充実した臨床歯学教育を実施しています。

是非、皆さんには、大学生活の中で様々なことにチャレンジをしてもらいたいと思います。そして、考えてください。挫折も、人間を大きくします。これから皆さんが、大学での歩みの中で、良き友に巡り合い、良き師に恵まれて、自らの豊かな道を切り拓き、そして皆そろって卒業式の日を迎えることを願っています。